



ミュージアム青空レクチャー 「震生湖 現地 見学会」

秦野市・中井町にまたがる震生湖は1923年(大正12年)9月1日の関東大震災のときに発生した崖崩れにより市木沢(いちきさわ)がせき止められ、そこに地下水がたまりできたものです。面積は約1万3千平方メートルあり紅葉が美しいことから秦野市民 中井町民に愛される景勝地になっています。

今回のミュージアム青空レクチャーは震生湖を訪れその文化財的な価値、また地質学的な資源であることを専門家の説明を受けながら見学する予定です。

改めて震生湖の魅力を認識していただける見学ツアーになることでしょう。

| | |
|------|--|
| 日 時 | 令和元年10月26日(土) 午前9時から11時30分頃まで(小雨決行) |
| 行 程 | 白笹稻荷神社集合 資料配布後徒歩移動 震生湖へ 震生湖周辺を学習散策 現地解散 |
| 集合場所 | 白笹稻荷神社(秦野市今泉1089) 午前9時 駐車場 使用可能 |
| 申し込み | 事前の申し込みが必要です。10月1日受付開始(先着50名) 申し込み先 桜土手古墳展示館 TEL:0463-87-5542 |
| 参加費 | 無料 |
| 講 師 | (一財)砂防フロンティア整備推進機構 専門研究員 井上公夫 氏 |

注 記

今回 集合場所からの移動では少し急な坂道を登ります。また湖畔を歩くときに足元の悪いところがありますので歩きやすい履きなれた靴でご参加ください。ちなみに歩く距離は合計で2.5~3km程度と予定しています。

途中 飲み物を入手するところがありませんので 各自飲み物を御持参ください。解散後震生湖から神奈中バス便がありませんので徒歩で白笹稻荷まで戻っていただくようになります。



震災直後の崩落現場

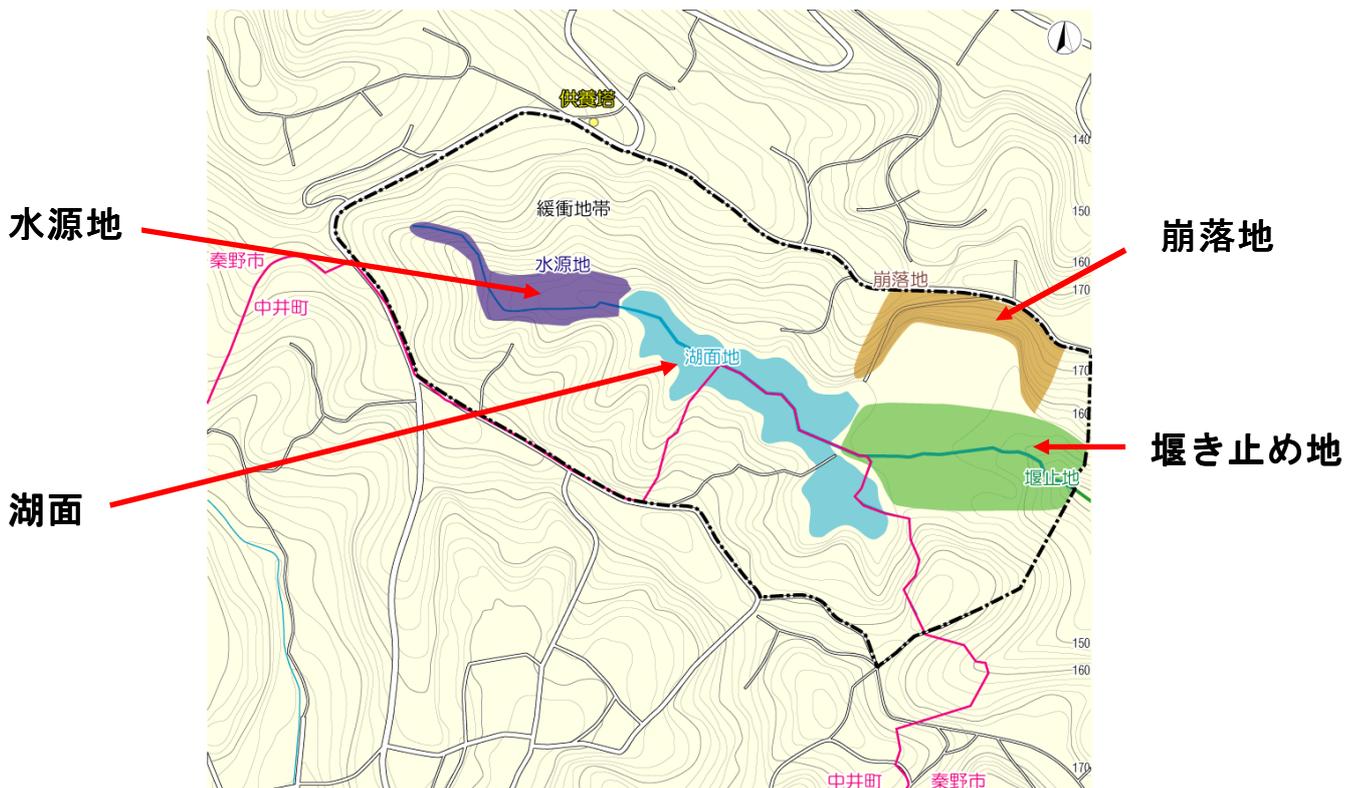


昔の震生湖

震生湖について

震生湖は1923年(大正12年)9月1日に発生し、死者行方不明者が10万5千人を超え未曾有の災禍となった関東大震災により渋沢丘陵の一部が崩落し、市木沢を堰き止めてできたものです。2023年には関東大震災から100年目を迎えます。このタイミングで震生湖を震災遺構としてとらえ 市民の防災意識の向上や 防災教育にも役立てること、さらに秦野市、中井町を代表する観光名所として発展させることも重要なことと考えられます。

震生湖のでき方



令和元年度 第3回 「ミュージアムさくら塾」開催のお知らせ



今回のさくら塾は開催会場が南公民館となりますのでご注意ください。

震生湖について 市民のみなさんに理解を深めていただくよう 講演会を計画しました。震生湖は市民の憩いの場所であるとともに、関東大震災により誕生した自然湖で、地質学的な資源でもあります。より多くの方々に講演を聞いていただくために 開催場所を南公民館とし 200名まで参加いただけるよう計画しました。



日 時 令和元年 11 月 23 日(土)(祝)

14:00~16:00

場 所 秦野市立南公民館(秦野市今泉 598 番地)

(駐車場利用可能 隣接する JA 駐車場もご利用いただけます)

申し込み **事前申し込みが必要です。**

申し込み開始日 令和元年 11 月 1 日(金)

定員は 200 名です。(申し込み先着順)

申し込み先電話 桜土手古墳展示館 0463-87-5542

参加費 200 円(当日受付でお支払い)

内 容 震生湖の成り立ち 地質学的資料の価値 自然との対話

